

〈市政モニターアンケート調査結果（平成22年度3回目：水道局）〉

【調査目的】

水道は、私たちの毎日の生活や都市活動の中で欠かすことのできない役割を果たしています。
近年、全国各地で地震が発生していますが、別府市水道局では、大震災が発生した場合でも、断水を最小限にとどめ、飲料水をできる限り確保するよう、水道施設の耐震化や耐震性貯水槽の維持管理など、震災対策に取り組んでいます。
そこで、今回、「水道の災害対策及び危機管理」についてアンケートをお願いしました。

【調査対象】平成22年11月

【調査対象者】平成21・22年度市政モニター95人

【調査方法】郵便・FAX・電子メールを通じてアンケートに回答

【回答者数】89人(回収率94%)

A - 1 あなたの年齢を選んでください。

	回答数	構成比
(1) 19歳以下	0	0.0%
(2) 20～29歳	4	4.5%
(3) 30～39歳	19	21.3%
(4) 40～49歳	11	12.4%
(5) 50～59歳	7	7.9%
(6) 60歳以上	48	53.9%
無回答	0	0.0%
計	89	100.0%

A - 2 あなたの世帯構成を選んでください。

	回答数	構成比
(1) 単身	12	13.5%
(2) 2人	31	34.8%
(3) 3人	21	23.6%
(4) 4人	12	13.5%
(5) 5人以上	12	13.5%
無回答	1	1.1%
計	89	100.0%

A - 3 あなたは現在の場所にどのくらいお住まいですか。

	回答数	構成比
(1) 1年未満	1	1.1%
(2) 1～5年未満	12	13.5%
(3) 5～10年未満	24	27.0%
(4) 10年以上	52	58.4%
無回答	0	0.0%
計	89	100.0%

A - 4 あなたの居住形態を選んでください。

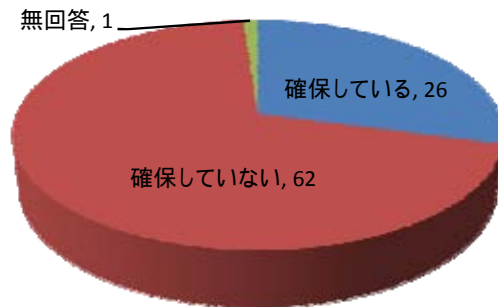
	回答数	構成比
(1) 一戸建て	66	74.2%
(2) 集合住宅（1～3階建て）	8	9.0%
(3) 集合住宅（4階建て以上）	15	16.9%
無回答	0	0.0%
計	89	100.0%

A - 5 あなたの職業を選んでください。

	回答数	構成比
(1) 自営業	6	6.7%
(2) 会社員・団体職員など(常勤)	15	16.9%
(3) パート・アルバイト(非常勤)	12	13.5%
(4) 主婦	19	21.3%
(5) 学生	2	2.2%
(6) 無職	26	29.2%
(7) その他	9	10.1%
無回答	0	0.0%
計	89	100.0%

問1 あなたのご自宅では、大地震等が発生した際に備えて、飲料水を確保されていますか。

	回答数	構成比
(1) 確保している	26	29.2%
(2) 確保していない	62	69.7%
無回答	1	1.1%
計	89	100.0%

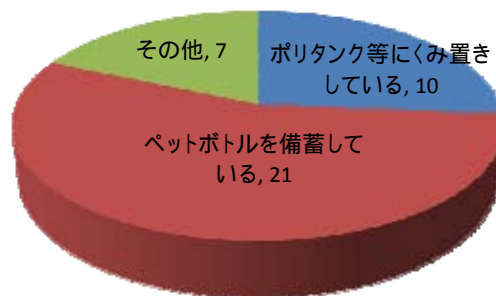


問2 問1で、「確保している」とお答えになった方にお尋ねします。飲料水はどのような方法で確保されていますか。次の中からいくつでもお選びください。

	回答数	構成比
(1) ポリタンク等にくみ置きしている	10	26.3%
(2) ペットボトルを備蓄している	21	55.3%
(3) その他	7	18.4%
無回答	0	0.0%
計	38	100.0%

【その他の回答】

- ・日田天領水を20リットルを4箱確保している
- ・425ml缶×12缶保有。近々取り替え予定
- ・ペットボトルに入れ家の隅に置いている



問3 問1で、「確保している」とお答えになった方にお尋ねします。
一人当たりどれくらいの量の飲料水を確保されていますか。

	回答数	構成比
(1) 3リットル未満	3	11.5%
(2) 3リットル以上10リットル未満	9	34.6%
(3) 10リットル以上20リットル未満	3	11.5%
(4) 20リットル以上	5	19.2%
無回答	6	23.1%
計	26	100.0%

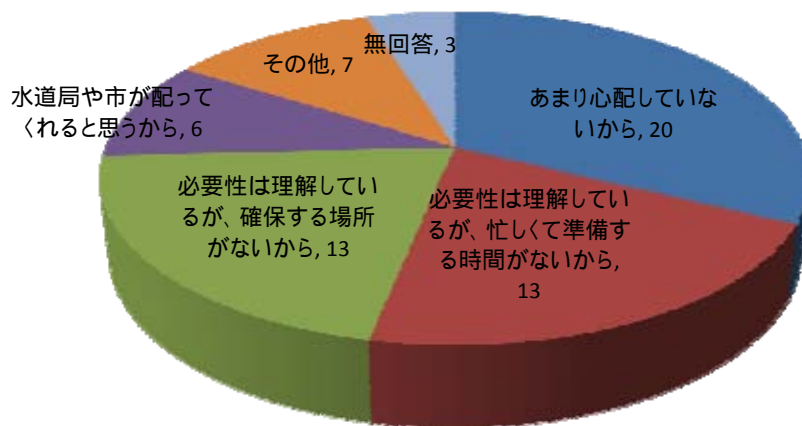


問4 問1で、「確保していない」とお答えになった方にお尋ねします。
飲料水を確保していない理由は何ですか。次の中から最も近い理由を一つお選びください。

	回答数	構成比
(1) あまり心配していないから	20	32.3%
(2) 必要性は理解しているが、忙しくて準備する時間がないから	13	21.0%
(3) 必要性は理解しているが、確保する場所がないから	13	21.0%
(4) 水道局や市が配ってくれると思うから	6	9.7%
(5) 近隣住民の協力・援助を得られると思うから	0	0.0%
(6) その他	7	11.3%
無回答	3	4.8%
計	62	100.0%

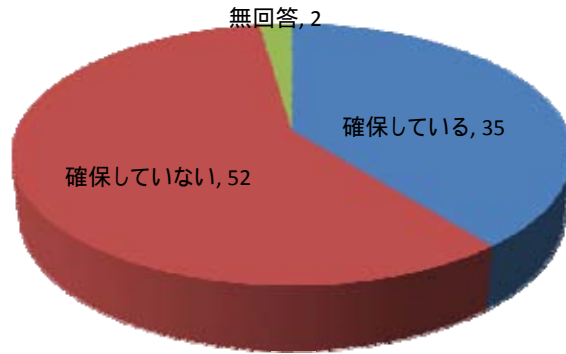
【その他の回答】

- ・ 必要性は理解しているが保存期間など面倒くさいから
- ・ 予期せぬ災害時の危機意識の欠如
- ・ 気が付かなかったから
- ・ 以前は確保していたが、管理が大変で休みにしている
- ・ 確保した場合水質の低下が心配
- ・ 飲料水だけでも確保しないで市に相談はできない。人情として。
- ・ 共同温泉のためお風呂場が倉庫になっているから
- ・ 汲み置き水に対して、衛生面が心配
- ・ 何回か確保したが、長く置くのが不安で結局使った。



問5 あなたのご自宅では、大地震等が発生した際に備えて、お風呂やため置きなど飲料水以外の「生活用水」を確保されていますか。

	回答数	構成比
(1) 確保している	35	39.3%
(2) 確保していない	52	58.4%
無回答	2	2.2%
計	89	100.0%

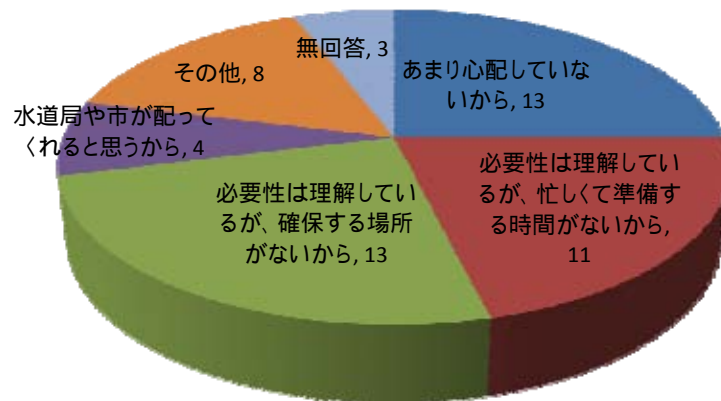


問6 問5で、「確保していない」とお答えになった方にお尋ねします。生活用水を確保していない理由は何ですか。次の中からもっとも近い理由を一つお選びください。

	回答数	構成比
(1) あまり心配していないから	13	25.0%
(2) 必要性は理解しているが、忙しくて準備する時間がないから	11	21.2%
(3) 必要性は理解しているが、確保する場所がないから	13	25.0%
(4) 水道局や市が配ってくれると思うから	4	7.7%
(5) 近隣住民の協力・援助を得られると思うから	0	0.0%
(6) その他	8	15.4%
無回答	3	5.8%
計	52	100.0%

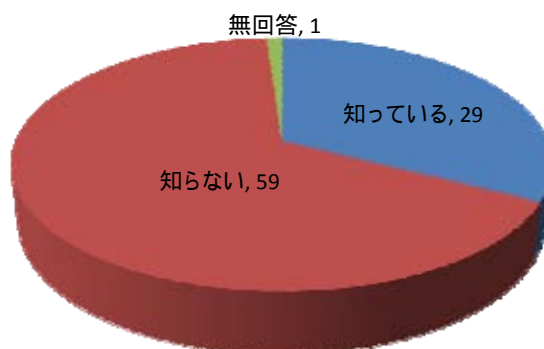
【その他の回答】

- ・気づいていなかった
- ・少人数（2人）で災害時の危機意識の欠如
- ・小さな子どもがいて貯め水などは危険なため
- ・気が付かなかったから
- ・近々雨水タンク設置を予定している
- ・雨水をかめに受け入れている
- ・自分で少しでも確保の努力をすること。
- ・温泉を利用しようと思っていますが、いけませんか。
- ・温泉なので、ずっと流すと風呂が傷むから
- ・常時雨水を貯めているが、危機管理目的ではない



問7 別府市では震災時の飲料水を確保するため市内に7箇所に耐震性貯水槽を設置していますが、あなたは耐震性貯水槽があることをご存じですか。

	回答数	構成比
(1) 知っている	29	32.6%
(2) 知らない	59	66.3%
無回答	1	1.1%
計	89	100.0%



問8 問7で「知っている」とお答えになった方にお尋ねします。
 あなたは、ご自宅から最も近い耐震性貯水槽の場所を具体的にご存じですか。

	回答数	構成比
(1) 知っている	20	69.0%
(2) 知らない	9	31.0%
無回答	0	0.0%
計	29	100.0%



問9 問7で「知っている」とお答えになった方にお尋ねします。
 あなたは、日常、ご自宅以外で所在することが多い場所(勤務先や学校等)から最も近い耐震性貯水槽の場所を具体的にご存じですか。

	回答数	構成比
(1) 知っている	17	58.6%
(2) 知らない	7	24.1%
無回答	5	17.2%
計	29	100.0%

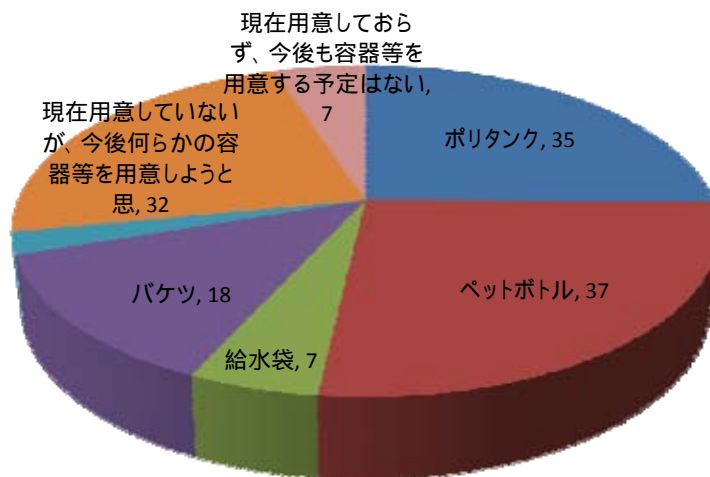


問10 あなたは、耐震性貯水槽などの給水拠点から水を運ぶために、現在どのような容器等を用意していますか。次の中からいくつでもお選びください。

	回答数	構成比
(1) ポリタンク	35	25.2%
(2) ペットボトル	37	26.6%
(3) 給水袋	7	5.0%
(4) バケツ	18	12.9%
(5) その他	3	2.2%
(6) 現在用意していないが、今後何らかの容器等を用意しようと思っている	32	23.0%
(7) 現在用意しておらず、今後も容器等を用意する予定はない	7	5.0%
無回答	0	0.0%
計	139	100.0%

【その他の回答】

- ・そもそも水を運ぶことが無い
- ・ナイロン袋が一番良い。持参に便利。
- ・有り合わせの容器が何かある



**問11 問10で「現在用意しておらず、今後も容器等を用意する予定はない」とお答えになった方にお尋ねします。
給水拠点から水を運ぶための容器等を用意されない理由は何ですか。次の中から最も近い理由を一つお選びください。**

	回答数	構成比
(1) あまり必要性を感じないから	3	42.9%
(2) 適当な容器が分からないから	1	14.3%
(3) 忙しくて用意する時間がないから	0	0.0%
(4) 容器を置く場所がないから	2	28.6%
(5) 水道局や市が用意してくれると思うから	0	0.0%
(6) その他	1	14.3%
無回答		-
計	7	100.0%

【その他の回答】

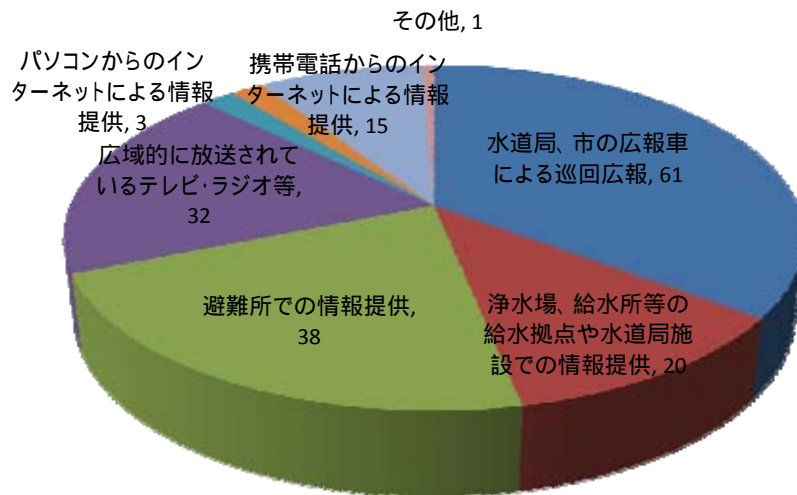
・震災時、1週間程度の水を確保している。

問12 あなたは、震災発生後3日程度の間、水道に関する初期情報を迅速かつ的確に知るために、どのような手段が有効だと思いますか。特に有効だと思うものを2つまでお答えください。

	回答数	構成比
(1) 水道局、市の広報車による巡回広報	61	35.3%
(2) 浄水場、給水所等の給水拠点や水道局施設での情報提供	20	11.6%
(3) 避難所での情報提供	38	22.0%
(4) 広域的に放送されているテレビ・ラジオ等	32	18.5%
(5) ケーブルテレビ	3	1.7%
(6) パソコンからのインターネットによる情報提供	3	1.7%
(7) 携帯電話からのインターネットによる情報提供	15	8.7%
(8) その他	1	0.6%
無回答	0	0.0%
計	173	100.0%

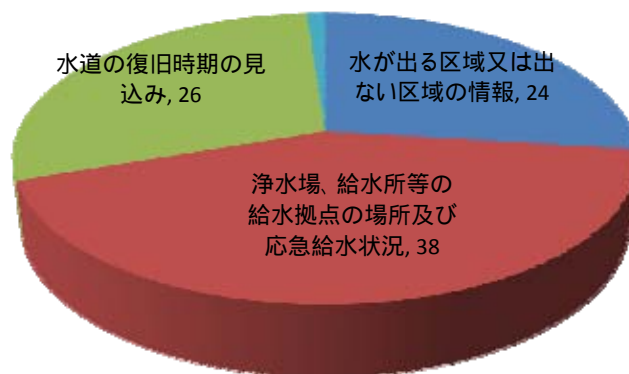
【その他の回答】

・ヘリコプター等による上空からの広報



問13 あなたは、震災時、ご自宅で水道が止まってしまったとき、一番早く知りたい情報は次のどれですか。一つお選びください。

	回答数	構成比
(1) 水が出る区域又は出ない区域の情報	24	27.0%
(2) 浄水場、給水所等の給水拠点の場所及び応急給水状況	38	42.7%
(3) 水道の復旧時期の見込み	26	29.2%
(4) その他	0	0.0%
無回答	1	1.1%
計	89	100.0%

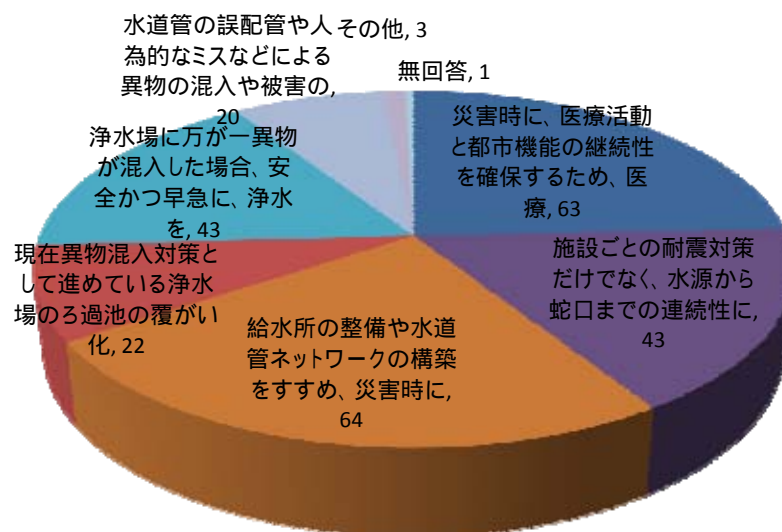


問14 あなたが今後、水道事業で重点的に力を入れてほしい災害対策及び危機管理は何ですか。次の中からいくつでもお選びください。

	回答数	構成比
(1) 災害時に、医療活動と都市機能の継続性を確保するため、医療活動の拠点となる病院や都市中枢機関等に関わる水道施設の耐震化を早期に実施すること	63	24.3%
(2) 施設ごとの耐震対策だけでなく、水源から蛇口までの連続性に配慮した水道施設の耐震対策をすること	43	16.6%
(3) 給水所の整備や水道管ネットワークの構築をすすめ、災害時に水が使えない区域を最小限にすること	64	24.7%
(4) 現在異物混入対策として進めている浄水場のろ過池の覆がい化（ふたで覆うこと。）に加えて、さらに沈でん池など他の施設への異物混入対策を進めること	22	8.5%
(5) 浄水場に万が一異物が混入した場合、安全かつ早急に、浄水を再開できるよう、異物を排除するための排水機能を整備すること	43	16.6%
(6) 水道管の誤配管や人為的なミスなどによる異物の混入や被害の広がりを防ぐため、建物に引き込まれている水道管に逆流防止機能を加えること	20	7.7%
(7) その他	3	1.2%
無回答	1	0.4%
計	259	100.0%

【その他の回答】

- ・要援護者への情報提供と支援
- ・基本的には1～6全て必要だと思います
- ・人々をボランティアする人が多くなること。



問15 水道に関わる災害対策及び危機管理について、あなたのご近所や町内会で行っている活動、自分たちで出来そうなこと、これだけは行政にやってほしいことなどご意見がありましたら、ご自由にご記入してください。

	回答数	構成比
(1) 記述あり	57	64.0%
無回答	32	36.0%
計	89	100.0%

意見

(水道関係)

災害時、水は一番重要なものであることを常に考え毎日水を大切にしている。
水源地は見学したことが何度か有りますが、震災での水源地の影響等は認識不足でした。危機管理に関しては迅速な情報を期待します。町内会付き合いは以前よりあいさつを必ず交わし連帯感を育てるよう心がけています。大地震のことをもっと勉強せねばと反省しています。
市内にある耐震性貯水槽というものを全く知らなかったので、市報等で特集を組むなどのPR活動をしてほしい。
別府市の水事情は極めて良好と思っている。想定を超える災害がない限り大丈夫ではないかと安心している。
各自で水を確保すべき。近所付き合いもないので。
今からやるべき必要なこと、その時にどのような行動をすればよいのかをまとめた冊子が欲しい。
今後この件について大いに関心あり。このアンケート結果に基づいて取り組む方向に注目していきたい。持論がなくして申し訳ありません。
組の1か所に1つの給水タンクが常にあると安心です。
地震対策も大変に重要な対策ですが、時折配管の破裂による水の漏出を見たり、聞いたりします。配管の取替えや部分的でも早めの補強・補修を行って欲しい。
町内会では、自主防災会以外は特に行ってないそうです。自分も危機管理が薄いので災害時慌てないためにも飲料水の確保など自分で出来ることは少しでも日ごろからしておかねばと思いました。
今回のアンケートが実施されるまで災害時の水問題を真剣に考えることがありませんでした。市報を通じて、広報活動をしっかり行う必要性を感じました。我が家でも早速ポリ容器などに飲料水を保存しておこうと思います。
災害の規模によっても異なると思いますが、ライフラインである水道水が止まった場合のシュミレーションもやっているはず。多分、危機管理意識は市民より行政の方が高いと思いますので安心しています。
行政には、要援護者が避難できる施設整備の推進や具体的な支援の取り組みへの指針を示して欲しいと思います。自分たちでもライフラインが途絶えた際の3日間の飲料水や食料の備蓄・管理。生活水の備蓄は行わなければならないと思います。
耐震性貯水槽の場所を確認しておきたい。もしも・・・ということはいつも思いながら危機感が自分自身にあまりないためなのか深く考えたことがありませんが、これからはちゃんと考えたいと思いました。 浄水場に異物がもし混入したら・・・と言うことも全く考えてもいなかったことですが、水道管に逆流防止機能が付けば安心だなと思いました。
災害時に平等に医療、飲食の配布など公共の立場で行ってもらえるように日頃から感じています。しかし、想定した訓練が一度もなされていないことに不安です。

<p>今まで災害に対してどこか他人事で、対策なんて考えもしませんでした。なので、今思いつく対策法はありません。ただ、水はなくてはならないものなので、断水になった場合、復旧に関する情報は早く欲しいし、給水もどこで出来るか知りたいと思います。私のように給水場所がどこにあるのかわからなかったり、飲料水や生活用水を常にどの程度確保していれば良いのかわからない人もいると思うので、常に情報を提供してくれるとありがたいです。災害というと起こらない限り、あまり考えないような気がします。事前に備えておくことが大切なのは分かりますが、何も出来ていないのがほとんどではないでしょうか。災害が起きたときに被害を少なくするためにも備えることは絶対に必要です。災害を特別なものとせず、当たり前を考えるようになるには、市でもっと災害対策の情報を扱っても良いのではないかと思います。自分たちで出来ることも知りたいのですね。</p>
<p>耐震性貯水槽の配置マップの配布</p>
<p>災害が起きた場合、特に避難集合場所には水が供給できるようにもしていただきたいです。</p>
<p>近所で行うべき活動としては、アンケートに出ている「耐震性貯水槽」の場所などを確認しあう会を持つ。</p>
<p>情報提供</p>
<p>地震に対して心構えができていないと思います。少しでも市政に迷惑をかけないようにできる事は物品の集積に心がけます。</p>
<p>浄水場の保護対策を強化して欲しい</p>
<p>災害対策の話し合いは、今までないですが必要だと思います。現在は給水車などで早く助けてもらえますが、昔の井戸水を利用している人がいるのだろうかと思いました（利用しても電気ですりあげでは）。緊急時など利用できる昔の井戸があったら見学に行きたいです（市報にでも）</p>
<p>自分は普段生活していて今まで経験がないのでどうして準備したほうがいいのか考えていなかったのですが、今後ちょっと考えないといけないなと思います。勉強になります。</p>
<p>水についての詳しい危機感がありませんでした。火災訓練のように何か広報でも呼びかけてくだされば心構えなどできるのではないのでしょうか。災害対策なども全然わかりません。災害のないときこそ良い機会ですのでぜひ対策など教えていただきたい。</p>
<ol style="list-style-type: none"> 1 震災時の給水情報の確立 2 水道施設の耐震化 3 災害時の給水活動の迅速化 4 町内会では災害対策等の活動はほとんど実施されていない。したがって水道局等から啓発活動の呼びかけが重要ではないかと思う。
<p>別府の水は美味しいと思います。貴重な水ですので今後も、危機管理に一層のご尽力をお願いいたします。本当にありがとうございます。</p>
<p>飲料水の備蓄はそれぞれの家庭がしなければいけないと改めて思いました。行政には、状況の把握、情報提供を迅速にやってもらうことが第一だと思います。</p>
<p>現在水道に関わる災害対策及び危機管理について、行政に頼っています。もっと自分たち（自治会など）で学習する必要があると思っています。</p>
<p>鉄輪東町に住んでいます。水道水がとても美味しいです。風呂等は、温泉の湯を冷やして水の節約を行っており、町内全体で水道の節約に取り組んでいるようです。飲料水は水道水でないと体に害を与える危険性がありますが、日常生活には温泉で十分間に合うと思います。</p>
<p>災害時の危機管理について日頃考えていなかったので考える良い機会になりました。家庭でも飲料水の確保などでできることはしようと思います。災害はどこで起こるかわからないので避難場所となりそうな施設で誰でも給水が受けられるよう備蓄をお願いします。</p>

<p>自分たちでできる活動の人が何人集まってもボランティアの心のない人の集まりでは何もできませんよ。給水所で人の混乱整備に協力する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病気の人に先に与えて欲しい。ボランティア活動のしていない人は駄目です。 ・子どもたちの協力を大人が整備して指導してうまく丸くいくように指導して大人が入り混じって子どもの協力をしてもらうこと。 ・新ためて市報に市全体の飲料水の給水貯水槽の場所を地図を持って載せてください。
<p>災害対策に関する水道局がしましている情報の開示を市報など（インターネット）でしたらと思います。</p>
<p>自宅に給水設備を有している家庭（井戸、水源等）を全市内、早急に調査士、災害時に上水道が使えなくなった際の対策の一助とするように。</p>
<p>「空気と水はただ。どんな時でも空気は吸えるものだし水は飲めるものだ これは当たり前前のこと。」そう思っていた私。これは私のこれまでの生活環境及び日頃の災害に対する危機意識の欠如のせいである。今回のアンケートで災害時のライフライン、特に水について考えさせられた。</p> <p>水についての危機管理で自分が出来そうなこととして、 飲料水の確保(ペットボトルの備蓄 = 10リットル~20リットル)。生活水の確保(確保の場所の問題はあるが)。行政には、給水所の整備や水道管ネットワークの構築をすすめ、災害時に水が使えない区域を最小限にすることに努めていただきたい。</p>
<p>町内会などで水やその他の備蓄などを各家に呼び込んで欲しいと思います。その他備蓄する量なども決めてから普段から呼びかけをしていってほしいと思います。</p>
<p>普段水道の水を当たり前のように使っているが、今回のアンケートに答えていく中で一旦災害が発生したときのことを考えるともっと関心を持たないといけないと思った。また、水道局をはじめ水道行政に関わっている方たちへの感謝の気持ちも湧いてきました。</p>
<p>自分たちで出来そうなこと。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 3日分の飲料水の確保 2 風呂の残り湯は捨てない 3 上層階までの水の運び方を話し合う 4 ご近所の高齢の方へ水を届ける <p>行政にやってほしいこと 小中学校でも訓練だけでなく危機管理について話し合いを持って欲しいと思います。</p>
<p>阪神淡路大震災のときに芦屋市に住んでいた、その時に気づいたことがある。</p>
<p>問12、14のように専門的なことは良く分からないのですが、もし災害があったら、たくさんの情報正確な方法を市民に流してほしいと思います。私の周り是一人暮らし、高齢者夫婦が多いので重い水をどのように運ぶかとかが問題です。</p>

(市関係)

<ul style="list-style-type: none"> ・別府では源泉水が側溝を常に流されています。これらを夏の湯水時消防用水として貯めてはと思います。 ・これから災害用としてミネラルウォーターの買置きをしようと思います。
<p>問5に関連 災害時の生活用水、火災時の初期消火に役立つ「雨水タンク」設置助成を切望する。 (平常は打ち水(エコ)散水に利用(上水道の水を打ち水、散水に使うことはない)大分市では既に半額助成を実施している。)この件については先にモニターとして具申ししたが、未だに形になっていない。</p>
<p>雨水タンクの補助金対策を進めて欲しいです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害対策(非常時の生活用水)として利用できる。 ・浸水対策(水路や側溝に一挙に流れ出る雨水の量を減らすことができるから。) <p>大分市では最高30,000円まで補助金を交付するそうです。</p>

<p>老齡化が進んでいる今日、水道管の破裂や大量の漏水などは町内会や近所の力では処理活動は期待できない。震災発生時には、早急に若い活動力のある自衛隊の力や機械を導入し、活用することが重要である。幸い別府には自衛隊の駐屯地があり、多数の隊員がいるので、市長は自衛隊の隊長に連絡し、出動を要請してほしいと思っています。</p>
<p>地震や災害時などに必要なペットボトルや食料の確保など個人個人で用意しなければいけないことは分かっていますが、実際小さな子どもを連れて避難するときに重いペットボトルを抱えて逃げることは不可能に近いと思います。個人的に行政側をお願いするとすれば、災害時に備えての飲料水、食料を出来るだけ安全な場所へ備蓄してもらうことです。今すぐに必要のない建物を建てるより備蓄のためのシェルターを作ったほうが市民のためになるのではないのでしょうか。</p>
<p>各種災害の危険度（発生確率）とハザードマップ、対応策などを徹底して広報すること。</p>
<p>バケツリレーを体感。水をできるだけ使わずに過ごす一日を全市一斉に行ってみる etc.</p>
<p>当町内は高齢者が多く、災害対策の方法とかを行政でやって欲しい。</p>
<p>自治会での備蓄場所及びその内容、災害時の為同居している家族構成の調査が行われていました。別府に移って5年になりますが、自治会の回覧、市報等で一度も知らされていないと思います。少なくとも年に一度(防災の日)には別紙で各家庭に知らして欲しいと思います。</p>

(自治会関係)

<ol style="list-style-type: none"> 1 大震災時に現在簡単なペットボトル、バケツ、ヤカンを満杯にしておくことくらいしている。それが災害時にどのくらい役立つか、又、冷蔵庫を開ける余裕時間と家屋の損害等を考えたとき、ほとんど役立つ感じがしません(慌てている)。 2 対策としては、避難所の給水に頼ると思います。 3 地区の班長、区長等を使って「水」の一番大切な供給を指導してほしい。 4 忘れた頃に来る災害に備え、協力に地区の集会の連絡網をやってほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理における町内会等での活動については行っていない。行政に対しては施設ごとにはもちろん水道施設の耐震対策をして欲しい。 ・自治会における活動に対して、公民館の地下に耐震性のある飲料水の水槽等つくる必要があるのでは。
<p>町内の自治会長さんや組長さんの組員の皆さんと年2回くらいリハーサルをして町内の皆さんの危機管理をして年寄りのほうや一人住まいの人ごとをお願いして、命の尊さを分かって欲しいと思います。</p>
<p>近所や町内会で行っている活動、自分たちでできそうなことは今のままでよいと思います。</p>
<p>災害が起これば行政職員も被害にあわれる場合もあると思いますが、できる範囲で最大限に住民のサポートをお願いします。</p>

質問

別府市は海に隣接しているので災害が発生したときに、海水を蒸留して真水として活用することはできないのでしょうか？
(回答) 海水を蒸留して真水にするには多大なエネルギーが必要となり、その確保が困難であると考えます(近くに火力発電所等の冷却を必要とする施設があれば海水を蒸留できると思います)。 一般に海外などで採用されている、海水に圧力をかけて逆浸透膜と呼ばれるろ過膜の一種に通し、海水の塩分を濃縮して捨て、淡水をこし出す逆浸透方式があります。膜が海水中の微生物や析出物で目詰まりしないよう入念に前処理する必要があること、整備にコストがかかること、などの難点があります。また、飲用する場合は加熱やオゾン処理により殺菌し、ミネラル分を添加して味の調整をする必要があります。どちらの設備も多大なコストやエネルギーがかかります。

災害時ほかの自治体等連絡体制が取れるようになってはいますか？ 水確保の応援要請ができるように
(回答) 災害発生時には、多くの都市が加盟している日本水道協会を通じて被災都市に給水活動など応援に向かう体制ができております。

別府市内に7か所にある耐震性貯水槽の場所はどこでしょうか。知りたいです(市報にでもお願いします)
(回答) 耐震性貯水槽の場所は、下記の7か所です。 <ul style="list-style-type: none">・別府公園西門・海門寺公園・松原公園・亀川浜田児童公園・鶴見小学校・南石垣公園・実相寺公園多目的グラウンド入口

水道局から

問1において、大地震等が発生したさいに備えて飲料水を確保しているかについて、「確保していない」と回答した人が69.7%と高くなっています。確保しない理由を問4で尋ねたところ、「あまり心配していないから」(32.3%)「必要性は理解しているが、忙しくて準備する時間がないから」(21.0%)「必要性は理解しているが、確保する場所がないから」(21.0%)となっています。

反対に、問1で「確保している」(29.2%)と回答した人に、問2でどのような方法で確保しているか尋ねたところ、「ペットボトルを備蓄している」(55.3%)「ポリタンク等にくみ置きしている」(26.3%)との回答でした。その量について問3で尋ねたところ、「3リットル以上10リットル未満」(34.6%)と最も多くなっております。

問7で別府市内に設置している耐震性貯水槽について知っているか尋ねたところ、「知っている」(32.6%)という回答でした。耐震性貯水槽の認知度がまだ高くないことが分かりました。

問8において、自宅に近い耐震性貯水槽を知っているか尋ねたところ、「知っている」(69.0%)との回答でした。また同様に、問9において、職場や学校等から近い耐震性貯水槽を知っているか尋ねたところ、「知っている」(58.6%)と回答をいただきました。

問12において、震災発生後3日程度の間、水道に関する初期情報を知るために、どのような手段が有効か尋ねたところ、「水道局、市の広報車による巡回広報」(35.3%)と最も高い回答でした。続いて「避難所での情報提供」(22.0%)「広域的に放送されているテレビ・ラジオ等」(18.5%)となりました。

問13において、自宅の水道が止まったときに一番早く知りたい情報を尋ねたところ、「浄水場、給水所等の給水拠点の場所及び応急給水状況」(42.7%)と最も高い回答でした。

総括

耐震性貯水槽については、知らない方が6割を超える結果となり、まだまだ周知不足だと実感しました。より多くの市民の方が耐震性貯水槽を知ってもらえるような広報活動を行っていきたいと思います。

災害時に円滑に給水活動ができるように日頃からの啓発活動を期待する意見も多く寄せられています。現在耐震性貯水槽の付近に住んでいる方々を対象に災害時に備えた操作訓練を行っています。この活動を引き続き行い、緊急時に備えていきたいと考えています。

また、いざ災害が起きた際には、給水に困らないように情報の提供をしっかりと行いたいと思っています。